

長女は小学6年生になり、修学旅行で日光へ行けることが嬉しくて、3千円のおこづかいをどう使おうか、何しようかと毎日考えています。学校からいただいてきたカタログを持つて、おじいちゃんとおばあちゃんに何がいいのか聞いています。孫のおこづかいを考えると、とても言えないようです。

力タログを見ながら「特別ないなあ、おみやげ、心配しなくていいよ。いっぱい楽しんでいいで。」と、そつと私に見えない様におこづかいをあげています。二コツ笑っています。娘、なんだと笑っています。いつもありがとう。

いなかつたなあと思いました。いつもありがとう。



(大田区/J・M)

長女は小学6年生になり、修学旅行で日光へ行けることが嬉しくて、3千円のおこづかいをどう使おうか、何しようかと毎日考えています。学校からいただいてきたカタログを持つて、おじいちゃんとおばあちゃんに何がいいのか聞いています。孫のおこづかいを考えると、とても言えないようです。

力タログを見ながら「特別ないなあ、おみやげ、心配しなくていいよ。いっぱい楽しんでいいで。」と、そつと私に見えない様におこづかいをあげています。二コツ笑っています。娘、なんだと笑っています。いつもありがとう。

いなかつたなあと思いました。いつもありがとう。

中学時代を思い出し、思い出話をしていると皆苦笑い。でもこうして再開できたことが嬉しかったです。話題は足腰の衰えの心配と孫の話で盛り上がり、皆良きおじいちゃん、おばあちゃんになっていました。

3時間あまりの時間でしたが、50年前の自分に振り返れたり、今のが本当に感謝できたり、幸せな一日でした。

(品川区/Y・H)

● ぎんなんよ、ありがとう

近所を散歩していると晩秋から初冬への移り変わりを花や木が教えてくれます。あるお宅の垣根越しにからは、薄紫の野菊や紅色の山茶花が咲き乱れ、熟れた柿がたわわに実っています。いつもありがとう。

僕が子供のころには、夜半に強風が吹いた翌日は、早くから捨に出た人たちを見かけたものです。僕もその日、兄と二人で捨に行き沢山の実を拾って持ち帰ると、母は悦びながら、果肉をつけた臭い実を土に埋めると言うのです。

今では、こんな方法は採りませんが当時は数日間、土に埋めて、果肉等々、読みながら時には笑い、時には涙し、時には「そうそう」「ある」と共感し、楽しく読ませていただいています。読み終わると温かい心になりました。

言われるままに、井戸端の狭い空き地を掘つて埋めたまでは良かないのですが…。

やがて翌年の春先になつた頃のことでした。その空き地のあちこちから新芽が出てきたのです。皆に聞いても何の芽か分からぬと言うので、取りあえず、一本を掘り出してみると若い根毛に割れた、

我が家に知人から、「ありがとうの輪」新聞が届くようになつて、2年余りになります。毎回家族で楽しみ待っています。

各地の様子、各家族の在り方、友人への感謝、身近な人への思いやり等々、読みながら時には笑い、時には涙し、時には「そうそう」「ある」と共感し、楽しく読ませていただいています。読み終わると温かい心になりました。

毎月ありがとうございます。

(墨田区/H・N)



● 同居をしてくれて ありがとう



● クラス会にありがとう

還暦を機に、中学校のクラス会を45年ぶりに再開し、今年で5年になります。先日、幹事の方から是非とのお説があり、2年ぶりに出席しました。

今回は思いがけずクラス1の問題児だったM君が出席してくれました。皆はM君が今どうなっているのか興味津々でしたが、落ち着いた老紳士になっていたのにはビックリしました。



腰の痛みがなければもうよいですが、昨今は捨人はいないのだろうか。僕が子供のころには、夜半に強風が吹いた翌日は、早くから捨に出た人たちを見かけたものです。僕もその日、兄と二人で捨に行き沢山の実を拾つて持ち帰ると、母は悦びながら、果肉をつけた臭い実を土に埋めると言うのです。

今では、こんな方法は採りませんが当時は数日間、土に埋めて、果肉等々、読みながら時には笑い、時には涙し、時には「そうそう」「ある」と共感し、楽しく読ませていただいています。読み終わると温かい心になりました。

我が家に知人から、「ありがとうの輪」新聞が届くようになつて、2年余りになります。毎回家族で楽しみ待っています。

各地の様子、各家族の在り方、友人への感謝、身近な人への思いやり等々、読みながら時には笑い、時には涙し、時には「そうそう」「ある」と共感し、楽しく読ませていただいています。読み終わると温かい心になりました。

● 「ありがとうの輪」新聞に ありがとう

(世田谷区/H・A)

ぎんなんの殻が付いていたのです。

何のことはない家族のみなが、ぎんなんを埋めたことなど、すっかり忘れていたのです。振り返ると、貧しかったが、皆が元気で希望に燃えていた一番良い時期だったのかも知れません。

落ち葉を踏みしめながら、そんな遠い日のことを思い出させてくれたぎんなんよ、ありがとう。

